

2020年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年4月28日

上場会社名 株式会社ポーラ・オルビスホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 4927 URL <https://www.po-holdings.co.jp/>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 鈴木 郷史
 問合せ先責任者(役職名) 取締役財務担当 (氏名) 藤井 彰 (TEL) 03-3563-5517
 四半期報告書提出予定日 2020年5月15日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2020年12月期第1四半期の連結業績(2020年1月1日~2020年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第1四半期	43,316	△17.4	2,006	△70.4	△154	—	△1,246	—
2019年12月期第1四半期	52,440	△11.9	6,773	△31.9	6,525	△31.0	4,157	△35.1

(注) 包括利益 2020年12月期第1四半期 △1,245百万円(—%) 2019年12月期第1四半期 4,227百万円(△24.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年12月期第1四半期	△5.64	—
2019年12月期第1四半期	18.80	18.77

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年12月期第1四半期	209,155	171,893	82.0	775.35
2019年12月期	227,256	191,069	83.9	862.00

(参考) 自己資本 2020年12月期第1四半期 171,521百万円 2019年12月期 190,690百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年12月期	—	35.00	—	81.00	116.00
2020年12月期	—	—	—	—	—
2020年12月期(予想)	—	35.00	—	45.00	80.00

(注1) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年12月期の連結業績予想(2020年1月1日~2020年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	190,000	△13.6	19,000	△39.0	16,500	△46.1	8,400	△57.3	37.97

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 -社 (社名) 、除外 -社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2020年12月期 1 Q	229,136,156株	2019年12月期	229,136,156株
② 期末自己株式数	2020年12月期 1 Q	7,916,253株	2019年12月期	7,916,253株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2020年12月期 1 Q	221,219,903株	2019年12月期 1 Q	221,179,303株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は経済情勢等様々な不確定要因により、これらの予想数値と異なる場合があります。業績予想に関する事項は、【添付資料】P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報)	10
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（2020年1月1日～2020年3月31日）におけるわが国の経済は、雇用・所得環境の改善が続くなかで緩やかな回復基調が続いておりましたが、2月下旬からの新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大により企業活動が制約を受けた影響で、輸出や生産に弱さが見られ、景気の先行きが不透明な状態となっております。

国内化粧品市場においては、消費税率引き上げ後の個人消費の弱さが残るなか、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴うインバウンド需要の大幅減少や、外出自粛等の要請を受けた消費マインドの変化が見られ、足元の景気は悪化傾向にあります。海外化粧品市場においても、世界規模で拡大する新型コロナウイルス感染症の影響等により、先行き不透明な状態が続いております。

このような市場環境のもと、2017年からスタートした4ヶ年中期経営計画（2017年から2020年）に基づき、国内のさらなる収益性向上と海外事業での黒字化、次世代の成長ブランド創出を達成すべく、取り組みを進めてまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における業績は次のとおりとなりました。

当第1四半期連結累計期間の売上高は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴うインバウンド需要の減少等による売上の減少影響により、前年同期比17.4%減の43,316百万円となりました。営業利益は売上高減による売上総利益減少により、前年同期比70.4%減の2,006百万円、為替差損を計上したことにより経常損失は154百万円（前年同期は経常利益6,525百万円）となりました。以上の結果に加え、育成ブランドに係る固定資産の減損損失の影響により、親会社株主に帰属する四半期純損失は1,246百万円（前年同期は四半期純利益4,157百万円）となりました。

〔業績の概要〕

	前第1四半期 連結累計期間 (百万円)	当第1四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同期	
			増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	52,440	43,316	△9,124	△17.4
営業利益	6,773	2,006	△4,767	△70.4
経常利益又は経常損失 (△)	6,525	△154	△6,679	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益又は四半期純 損失(△)	4,157	△1,246	△5,403	—

〔セグメント別の業績〕

売上高（外部顧客への売上高）

	前第1四半期 連結累計期間 (百万円)	当第1四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同期	
			増減額 (百万円)	増減率 (%)
ビューティケア事業	51,165	42,082	△9,082	△17.8
不動産事業	658	636	△21	△3.2
その他	617	597	△20	△3.3
合計	52,440	43,316	△9,124	△17.4

セグメント利益又は損失(△) (営業利益又は損失(△))

	前第1四半期 連結累計期間 (百万円)	当第1四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同期	
			増減額 (百万円)	増減率 (%)
ビューティケア事業	6,449	1,700	△4,749	△73.6
不動産事業	304	289	△14	△4.9
その他	35	4	△30	△85.9
セグメント利益の調整額 (注)	△15	11	26	—
合計	6,773	2,006	△4,767	△70.4

(注) セグメント利益の調整額とは、グループの内部取引に伴う利益及びセグメントに含まれない経費などを連結時に消去・加算した金額であります。なお、セグメント利益の調整額の詳細につきましては、P.10～11「1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報(注2)」をご覧ください。

(ビューティケア事業)

ビューティケア事業は、基幹ブランドとして「POLA」「ORBIS」を、海外ブランドとして「Jurlique」「H2O PLUS」を、育成ブランドとして「THREE」「DECENCIA」「Amplitude」「ITRIM」「FIVEISM×THREE」を展開しております。

POLAブランドでは、さらなるブランド価値の向上、事業基盤の強化を進めるため、エイジングケア・美白を中心とした高機能商品の投入、ブランド価値を体現するプロフェッショナル人材育成の強化に取り組んでおります。日本で初めてシワを改善する医薬部外品として承認された「リンクルショット」シリーズより、1月に薬用化粧品「リンクルショット ジオ セラム」(美容液)を発売しました。また、ポーラ最高峰シリーズ「B.A」より誕生した「B.A ライト セクター」(日やけ止め)は、太陽光の中で肌に良い影響をもたらす赤色光に着目した新発想の日中用クリームとして、3月の発売開始から2日間で約2万個を販売しました。海外での百貨店・免税店の展開も順次拡大し、海外事業の成長加速を進めてまいります。また、過去5年間の受賞実績をもとに、世界最大級のデザイン賞「iF DESIGN AWARD」のパッケージ分野で世界1位にランクインしました。新型コロナウイルス感染症の拡大により、中国国内での店舗営業の自粛や日本国内でのインバウンド需要の減速等の影響が生じてからは、SNSを活用した既存顧客のフォローや訪問による商品のお届け等のオンライン・オフラインを活用した顧客との関係性を継続しておりますが、POLAブランドは前年同期を下回る売上高・営業利益となりました。

ORBISブランドでは、高収益事業へと再成長を遂げるため、ブランド差別性の創出による存在感の向上に取り組んでおります。ブランドメッセージ「ここちを美しく。」の世界観を体現する商品を中心としたコミュニケーションや、一貫した市場発信を強化しております。エイジングスキンケアシリーズ「オルビスユー」や、肌への機能が確認された特定保健用食品「オルビス ディフェンセラ」に加えて、2月には、第3の象徴商品となるクレンジング「オルビス オフクリーム」を発売し、新規顧客の獲得に貢献しました。また、アジア圏における顧客接点の拡大によるブランド認知率の向上に取り組んでおります。一方で、戦略的に顧客ターゲットの絞り込みに取り組んだ結果、既存顧客が減少したため、ORBISブランドは前年同期を下回る売上高となりました。費用面では、顧客構造が良化し、販促効率が向上したため、前年同期並みの営業利益となりました。

海外ブランドについては、Jurliqueブランドは豪州とアジア、H2O PLUSブランドは本拠地である米国での事業成長を目指した取り組みを行っております。Jurliqueブランドは、1月に植物エキスを独自理論で配合した最高峰のエイジングケアシリーズ「Nutri-Define」をリニューアル発売し、ブランドの根幹である独自農法や植物栽培のプロセスとともに積極的な市場発信を進めております。一方で、2月以降は新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受けたアジア地域や豪州、トラベルリテールでの営業活動が大幅に制限されたことにより、前年同期を下回る売上高となりました。費用面では販管費の縮小や固定費の削減に積極的に取り組んだものの、売上減少分をカバーするまでには至らず、営業損失が拡大する結果となりました。H2O PLUSブランドは、1月にベストセラーである「Hydration Oasis」シリーズを、「人・社会・自然」への影響に配慮したクリーンな処方へと全面刷新し、新規顧客の獲得に貢献しております。一方で、アメニティの出荷減により前年同期を下回る売上高となりましたが、販管費の削減に積極的に取り組んだため、営業損失が縮小する結果となりました。

育成ブランドについては、DECENCIAブランドの新商品による新規顧客獲得の好調や、2018年にローンチしたAmplitudeブランド、ITRIMブランド、FIVEISM×THREEブランドの売上成長がありましたが、THREEブランドにおける新型コロナウイルス感染症の拡大による売上減少の影響が大きく、前年同期を下回る売上高・営業利益となりました。

以上の結果、売上高（外部顧客に対する売上高）は42,082百万円（前年同期比17.8%減）、営業利益は1,700百万円（前年同期比73.6%減）となりました。

（不動産事業）

不動産事業では、都市部のオフィスビル賃貸を中心に、魅力的なオフィス環境の整備による賃料の維持向上と空室率の低下に取り組むとともに、子育て支援に特化した賃貸マンション事業も展開しております。当第1四半期連結累計期間は、一部テナントの退去の発生により、前年同期を下回る売上高・営業利益となりました。

以上の結果、売上高（外部顧客に対する売上高）は636百万円（前年同期比3.2%減）、営業利益は289百万円（前年同期比4.9%減）となりました。

（その他）

その他に含まれている事業は、ビルメンテナンス事業であります。

ビルメンテナンス事業は、主にビルの運営管理を行っております。当第1四半期連結累計期間は、工事受注減少により、前年同期を下回る売上高・営業利益となりました。

以上の結果、売上高（外部顧客に対する売上高）は597百万円（前年同期比3.3%減）、営業利益は4百万円（前年同期比85.9%減）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ18,101百万円減少し、209,155百万円（前連結会計年度末比8.0%減）となりました。主な増減項目は、余剰資金の運用による有価証券の増加1,498百万円、投資有価証券の増加1,221百万円により増加し、一方で現金及び預金の減少16,010百万円、受取手形及び売掛金の減少6,585百万円により減少しております。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ1,075百万円増加し、37,261百万円（前連結会計年度末比3.0%増）となりました。主な増減項目は、支払手形及び買掛金の増加449百万円、流動負債「その他」の増加1,831百万円により増加し、一方で未払法人税等の減少948百万円により減少しております。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ19,176百万円減少し、171,893百万円（前連結会計年度末比10.0%減）となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上1,246百万円、剰余金の配当17,930百万円により減少しております。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大に伴う国内外の外出自粛等による消費マインドの低下や、店舗営業の臨時休業等の対応により、業績に大きな影響を及ぼす状況が続いております。通期の連結業績予想につきましては、当初、上期中を想定しておりました新型コロナウイルス感染症の業績影響が、長期化する見通しとなったため、2020年2月14日に発表しました公表数値より、以下のように変更することといたしました。

2020年12月期通期連結業績予想の修正（2020年1月1日～2020年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 217,000	百万円 31,200	百万円 30,700	百万円 20,000	円 銭 90.41
今回修正予想（B）	190,000	19,000	16,500	8,400	37.97
増減額（B-A）	△27,000	△12,200	△14,200	△11,600	—
増減率（%）	△12.4	△39.1	△46.3	△58.0	—
（参考）前期実績 （2019年12月期）	219,920	31,137	30,630	19,694	89.04

(参考情報)

前期累計期間実績

	第 1 四 半 期	第 2 四 半 期	第 3 四 半 期	第 4 四 半 期
売上高	百万円 52,440	百万円 110,247	百万円 165,530	百万円 219,920
営業利益	6,773	16,236	25,411	31,137
経常利益	6,525	15,561	24,370	30,630
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,157	9,938	15,898	19,694

前期会計期間実績

	第 1 四 半 期	第 2 四 半 期	第 3 四 半 期	第 4 四 半 期
売上高	百万円 52,440	百万円 57,806	百万円 55,282	百万円 54,390
営業利益	6,773	9,462	9,175	5,725
経常利益	6,525	9,035	8,809	6,259
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,157	5,781	5,959	3,796

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	66,548	50,537
受取手形及び売掛金	21,624	15,038
有価証券	24,518	26,017
商品及び製品	13,684	14,493
仕掛品	853	915
原材料及び貯蔵品	5,163	5,092
その他	11,617	12,481
貸倒引当金	△1,074	△932
流動資産合計	142,935	123,643
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	17,866	17,399
土地	14,094	14,046
その他（純額）	12,026	11,461
有形固定資産合計	43,987	42,908
無形固定資産		
商標権	31	31
ソフトウェア	8,019	8,542
その他	98	98
無形固定資産合計	8,149	8,671
投資その他の資産		
投資有価証券	20,301	21,523
その他	12,056	12,628
貸倒引当金	△173	△219
投資その他の資産合計	32,184	33,932
固定資産合計	84,320	85,511
資産合計	227,256	209,155

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,129	3,578
未払法人税等	1,374	425
賞与引当金	1,490	1,626
ポイント引当金	2,872	2,567
その他の引当金	98	40
その他	17,657	19,489
流動負債合計	26,621	27,727
固定負債		
その他の引当金	88	97
退職給付に係る負債	3,872	3,998
その他	5,603	5,438
固定負債合計	9,564	9,533
負債合計	36,186	37,261
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	80,785	80,785
利益剰余金	100,915	81,737
自己株式	△2,652	△2,652
株主資本合計	189,047	169,869
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△62	△470
為替換算調整勘定	2,047	2,545
退職給付に係る調整累計額	△341	△423
その他の包括利益累計額合計	1,643	1,651
新株予約権	243	243
非支配株主持分	134	127
純資産合計	191,069	171,893
負債純資産合計	227,256	209,155

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年3月31日)
売上高	52,440	43,316
売上原価	8,011	7,106
売上総利益	44,429	36,210
販売費及び一般管理費		
販売手数料	12,014	9,627
販売促進費	4,659	3,662
広告宣伝費	2,793	2,698
給料手当及び賞与	4,652	4,760
賞与引当金繰入額	1,010	976
ポイント引当金繰入額	2,378	1,828
その他	10,147	10,650
販売費及び一般管理費合計	37,655	34,204
営業利益	6,773	2,006
営業外収益		
受取利息	42	44
為替差益	66	—
その他	72	43
営業外収益合計	182	88
営業外費用		
支払利息	21	20
投資有価証券評価損	265	500
為替差損	—	1,034
支払補償費	103	635
その他	40	58
営業外費用合計	430	2,248
経常利益又は経常損失(△)	6,525	△154
特別利益		
その他	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産除却損	7	84
減損損失	0	607
投資有価証券評価損	—	48
その他	0	3
特別損失合計	8	744
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	6,516	△898
法人税、住民税及び事業税	531	771
法人税等調整額	1,830	△418
法人税等合計	2,362	352
四半期純利益又は四半期純損失(△)	4,154	△1,251
非支配株主に帰属する四半期純利益	△2	△4
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	4,157	△1,246

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年3月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	4,154	△1,251
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△134	△408
為替換算調整勘定	△29	495
退職給付に係る調整額	236	△81
その他の包括利益合計	72	5
四半期包括利益	4,227	△1,245
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,229	△1,238
非支配株主に係る四半期包括利益	△2	△7

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2019年1月1日至2019年3月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ビューティク ア事業	不動産事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	51,165	658	51,823	617	52,440	—	52,440
セグメント間の内部 売上高又は振替高	17	123	141	504	645	△645	—
計	51,182	782	51,964	1,121	53,086	△645	52,440
セグメント利益	6,449	304	6,753	35	6,789	△15	6,773

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビルメンテナンス事業であります。なお、「その他」を構成していた医薬品事業については、当社の保有する株式会社ポーラファルマの全株式を2019年1月1日付で譲渡したことに伴い、連結の範囲から除外しております。

2 セグメント利益の調整額△15百万円には、セグメント間取引消去953百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△968百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない当社本社の管理部門に係る費用等であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自2020年1月1日至2020年3月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ビューティケ ア事業	不動産事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	42,082	636	42,719	597	43,316	—	43,316
セグメント間の内部 売上高又は振替高	16	130	147	361	508	△508	—
計	42,098	767	42,866	958	43,825	△508	43,316
セグメント利益	1,700	289	1,989	4	1,994	11	2,006

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビルメンテナンス事業であります。

2 セグメント利益の調整額11百万円には、セグメント間取引消去992百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△981百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない当社本社の管理部門に係る費用等であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的な感染拡大に伴い、2020年4月7日に日本政府が発出した緊急事態宣言を受け、一部の商業施設や当社の直営店で営業時間短縮、臨時休業を実施しております。これらの影響により、当初の想定以上に当社グループの財政状態及び経営成績に重要な影響を与える可能性があります。当該影響額につきましてはP.4「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。